豊岡市教育研修センターだより

豊岡市教育委員会　R８（２０２６）.１１.２　　No.１４
豊岡市のホームページにもアップしています。
豊岡市 HP→上段「くらし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ



次期学習指導要領等に向けた 審議まとめ④

「余白」の創出を通じた教育の質の向上について

１　「余白」創出の基本的な考え方

・「余白」の真の意味:単なる時間的な余りではなく、学校や教師にとっては「職務遂行上のゆとり（教材研究や研修の時間）」であり、子供にとっては「主体的に深く学ぶための時間」です。
・目的:先生方の熱意や過度な負担に依存する構造を見直し、教師と子供の双方にゆとりを生み出すことで、相互に相乗効果を発揮して教育の質を向上させます。

２　なぜこれまで時間に追われていたのか？（主な課題）

・「標準時数を下回ってはいけない」という強い不安:不測の事態を恐れて過剰な予備コマ（例：年間 1,086 コマ以上など）をあらかじめ組み込む傾向が続いていました。
・「年間 35 週＝週 29 コマ」の固定観念:指導要領の「年間 35 週以上」という最低基準をそのまま 35 週で割るため、毎週ぎっしり授業を詰め込む日課が定着していました。
・「厚い教科書をすべて教え切る」意識:教科書の内容を網羅的に教えなければならないという認識（本時主義）が強く、授業の進度が速くなったり時数が過大になったりしていました。

３　具体的にどのように「余白」を生み出すか？

⑴ 時間マネジメントと日課の見直し（適正化・平準化）

・年間 40 週での平準化:実情に合わせて年間 40 週で計画を立て、「週 28 コマ以下」（例：週 27 コマ＋研究・研修１コマ）に抑える日課への見直しを進めます。
・柔軟な時程の設定:年間の特定の多忙期を避けて授業コマ数を変動させたり、長期休業日の工夫（始業日の繰り上げ等）によって特定の月にゆとりを作ったりします。
・高校における弾力化:週 30 コマ標準の撤廃や、「1 単位＝17 コマ」とする新単位の導入により、半期ごとの単位認定や時数調整を可能にします。

⑵ 「調整授業時数制度」の活用

・あらかじめ「裁量的な時間」を確保しておくことで、特定教科で時間不足が生じても年度途中で柔軟に補充できます。これにより年度当初に過剰な予備コマを上乗せする必要がなくなります。

⑶ 学力向上に資する「教科書・指導内容の精選」

・単に内容を削るのではなく、本質的な学び（統合的な理解・総合的な発揮）を実現するために内容を整理します。
・教科書だけにすべてを頼るのではなく、デジタル教材や学校図書館・公立図書館等を活用して役割分担を図ります。また、調整授業時数（最大 15%程度の減）に対応した教科書づくりを進めます。

４　意識しておきたいポイント

・「教科書“を”教える」から「教科書“で”教える」へ:教科書を１ページ目からすべて網羅することに囚われず、子供が本質的な知識・技能を身につけ、活用できる授業づくりを目指します。
・創出された「余白」の還元:時間的なゆとりができた分を、日々の教材研究や同僚との指導法の共有、子供一人ひとりへの丁寧な声かけや見守りに充てていくことが求められます。

次期学習指導要領等に向けた審議のまとめについて（報告）、「余白」の創出を通じた教育の質の向上についての概要をまとめています。2028 年度から移行期間となります。おおまかにつかんでおくことが大切です。詳しい内容は、文部科学省のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞでご確認ください。